



University of the Ryukyus Library Bulletin. Vol. 24 No. 3 Sept. 30 1991.

学生と図書館

及川 三千男

最近、あるアメリカの大学図書館ニュース(注)を拾い読みしていたら、¹日本人留学生と図書館利用、という記事が目にとまった。すでに周知の通りわが国では数年前より、いわゆる『留学生受入れ10万人計画』というものが進行中である。しかし、一方において日本人学生の海外留学もまた、アメリカを中心としてかなりの数にのぼっているらしい。

よく言われることであるが、外国での大学生活はまず言葉の問題が第一で、次に相手の物の見方や考え方に思わぬギャップがあることに気付く、そして、改めてコミュニケーションの難しさを痛感するというわけである。しかし結局は言葉の上手下手より、そのペー

スとなっている文化的、社会的なものがコミュニケーションの重要な鍵であるということをもまず理解していなければならないのである。²日本人留学生の図書館利用、というこの短い報告は、アメリカの一地方大学に一团となって押し寄せる日本人留学生にどうすれば図書館の利用法が効果的に教えられるか、何か特別な方策でも、という観点から我が国の点数中心の学校教育や外国語教育の問題、さらには日本人の性格まで触れながら日米社会を端的に比較している点で興味深い。

さて、それではN大学の事例報告であるこの一文を要約してごく簡単に紹介することにしよう。

目	次
学生と図書館……………	1
図書館専用電算機導入に向けて……………	3
『第18回医学図書館員セミナー』 に参加して……………	5
沖縄関係図書新着案内……………	6
館内資料配置の一部変更……………	11
図書館事情……………	12
医学部分館だより……………	12

- (1)日本での授業は創造性とかオリジナリティを重要視せず低学年レベルからペーパーテストで順位を決め、これが小中高大ひいては社会人になるまで決定的なものとなっている。
- (2)小中高には図書室があるが、アメリカの様に授業と直結した形で機能してはおらずいわば自習室的なものである。もし生徒が図書室を利用するとしても辞典・辞書の類いに終わっている。
- (3)大学図書館でのレファレンスサービスはアメリカのように利用者に知られていないし、新入生にとっての図書館は、何か教養書でも借りる場所ぐらいにしか考えられていない。
- (4)日本では、特別に訓練を受けた職員がコンピュータ検索や科学・医学雑誌の相互貸借業務を行っているが、とくに指示がないと一般に学生は研究のために図書館を利用することは稀である。
- (5)過激な受験戦争も高校段階で全て終る。大学に進学しない生徒の口からは、しばしば“大学にいて遊べたらなあ”。
- (6)日本から来るこうした学生はアメリカの大学に入学後、授業の他に必ず図書館での課題研究があることを知って驚いてしまう。彼等は抄録や索引と言うものを知らないし、出された宿題について先生のところに聞きにいくどころか、レファレンスデスクの存在すら知らない。
- (7)少なくとも6年間も英語を習っているとされる日本人学生は、中国人留学生に比べ驚くほど話し方が下手である。文法や翻訳中心の授業、そして、こうした点にのみ重点を置くテストでは、人前で外国語を話すことには相当の抵抗があるのだろう。
- (8)ここでは、新入生に図書館での利用案内と見学がある。このオリエンテーションが終って図書館のエントランスでの会話

- も驚くにはあたらない；『何かわかった？』『何もわからなかった！』『私も』。
- (9)図書館利用案内がいかに重要な情報であるかを分かっていない学生には、例えば辞典のコーナーに連れて行って、研究社の英和・和英辞典をみせるとか、何かテーマを選んでペーパーを書かなければならない時のために英語版の講談社百科事典が役立つことを教える。加えて、他に英語で書かれた日本についての資料も。
 - (10)学生たちは出された宿題をすぐしなければならぬのにレファレンスデスクで尋ねようとしぬ。質問するためには知りたいことが何であるかを分かっていなければということで、特に日本人学生は「馬鹿げた質問、を避けようとする。ここで重要なことは、こちらからのお手伝いが必要かどうかという判断なのである。
 - (11)「郷に入りては郷に従え、の通り、留学生はその国の言葉を覚えるのが当然である」という言い方をする人もいる。しかし、図書館サービスとは常にこちら側から利用者に近付こうとするものであり、我々はその任務を全うするためにももっといろいろのことを学び、より良いキャンパスサービスの充実を考えていかなければいけない。

N大学報告の要点は以上である。ところどころに誤解や情報不足の点も見受けられるが、日本人留学生に限って“まさかこれほど”といった感じが無いわけでもない。しかしながら、昨今のわが国における大学教育論議と考え合わせるとき、果たして我々は大学人として、この一文に直ちに“NO”と言えるだろうか。

(おいかわ みちお・附属図書館事務部長)

(注) Yoshi Hendricks, "The Japanese as library patrons", C & RL News April 1991, p.221-225.

図書館専用電算機導入に向けて

松本連藏

1. はじめに

琉球大学附属図書館の本格的な電算化は昭和57年10月の閲覧管理システムの稼働からであった。それ以前には、昭和49年9月に図書館員によるコンピュータ研究委員会が設置され、昭和52年度には、雑誌の目録をコンピュータで編集し、学術雑誌目録(昭和52年4月1日現在:欧文編)を発行している。これは、情報処理センターのシステムFACOM 230-35を使用し、同センターの協力を得てのことであった。

附属図書館は昭和56年8月に千原団地に移転した。移転統合地における中央図書館には電子計算機の導入等、資料の管理及び事務処理面における機械化が予想されるとして、新築図書館の3階に電算室が設けられた。また、情報処理センターは、昭和55年6月に千原団地に移転し、FACOM230-15からFACOM230-35へ、そして、昭和57年にFACOMM-180ⅡADが導入された。この時、図書館にはFACOM V830、日本語プリンター等が設置され、閲覧管理システムの稼働とともに、情報処理センターのキャンパス南地区分室の役割も課されることとなった。以来、図書館は、情報処理センターの提供する業務用端末を使用し、昭和61年10月にはILIS(Integrated Library Information System)の導入を行い、ILISソフトでの閲覧業務、雑誌受入業務を稼働するに至った。さらに、昭和62年以降、情報処理センターの計算機はFACOM M-180ⅡADからM-360を経てM760/8へと機種が更新されてきている。それに伴い、図書館業務の機械化も拡張され、FACOM V830から情報処理センター末端機FACOM F9450への切り替えを行い、目録作成、目録検索等の業務が順次稼働している。さらに、平成2年6月、OPAC(Online Public Access Catalog)サービスを開始し、現在に至っている。

当然のことながら、学内共同利用施設であ

る情報処理センターの電算機は、研究用、教育用、事務用の機械化が進行するにつれ、その利用が増大してきたことはいうまでもない。

このような状況下で、図書館は図書館固有の業務を専用電算機で処理し、OPAC等の大容量を必要とする業務は情報処理センターの機器によって行うという機能分担を図るべく、新システムを概算要求した結果、平成3年度において正式に予算が認められ専用電算機の導入が確定した。

2. 新システムの基本方針

1) 現行業務の移行

図書館業務の機械化を推進することが、利用者サービスの向上並びに業務の能率化を希求しての事であることは論を俟たない。琉球大学図書館においても、過去10年間におよんで、情報処理センターとのコンピュータ資源の共用、人的協力関係のなかで、着実に学術情報の提供体制を推進してきた。特に情報処理センターの回線網によるOPACサービスシステムは、検索可能データ19万件のデータベースに成長している。これらのシステム構築はもちろん、データの蓄積等は、我が琉球大学附属図書館に関わりをもった先達による営々とした努力によるものである。新システムは、この点を十分に考慮しなければならない。従前より行われている業務としては、目録作成、雑誌受入、閲覧、目録検索があるが、専用機においては、更に図書受入、ILL(Inter Library Loan: 図書館間相互貸借)システムの導入を考えている。

2) 学術情報センターとの接続

本学附属図書館は昭和61年1月に全国で6番目に学術情報センター(当時東京大学文献情報センター)と接続を行っている。以来、同センターの代表的事業である目録・所在情報形成に参画してきた。

図書館は同センターの目録・所在情報サービスを利用して、入力作業を効率的に行うた

め、JAPAN/MARC や USMARC などの標準的書誌データベースをオンライン・ネットワーク方式により参照することで、省力化と処理の迅速化並びにデータの標準化を図ることができるとともに、本学の目録データベースの構築にとっても今やなくてはならないシステムとなっている。このほかにも、研究者等にとって必要な学術情報を迅速かつ確に提供する情報検索サービス、情報通信サービスとしてのメッセージの配送・保管サービスを行う電子メールサービス、平成4年度から運用が開始されるILLサービス等、学術情報センターの幅広いサービスは図書館業務並びに教育・研究活動への活用が期待できるものである。我が琉球大学には平成3年2月に、学術情報ネットワークのノード大学として高速デジタル回線が敷設され、その有効利用が期待されるところでもある。

3) 学内ネットワークとの連携

図書館専用機の導入に当たり、現行業務が支障なく新システムに引き継がれることは勿論である。図書館業務の第1の柱が学術資料の収集・保管にあるとすれば、過去に蓄積された情報を活用できる形で保持しなければならない。日常の業務が中断なく営まれかつ蓄積された情報及びカレントな情報を駆使して、第2の柱である教育・研究活動の支援が期待されている。その意味では、新システムは現行業務の継続性に十分留意しなければならない。

一方、近年の計算機、周辺装置及び通信機器等のハードウェア並びにソフトウェアの高性能化は急速に進んでいる。特に通信技術・

通信規約等の進歩・開発は著しいものがある。国立大学でも昭和62年度から学内LANが整備されつつある。本学でも平成3年度の情報処理センターの機器更新を機に情報処理センターネットワークが整備されることになっている。図書館も学外のみでなく学内ネットワークのノードとして、教育・研究活動の有効な支援を推進する時代にきている。新システムでは、学内ネットワーク上で機能する図書館業務ソフトの導入が望まれるところであるが、学内ネットワークと図書館システムとの技術的な統合については現時点ではむずかしい状況にある。従って、当面の業務システムと並行して、メーカーSE及び情報処理センターの協力を得ながら新しいソフトを開発することが必要であろう。

3. 新システムの機種決定

新システムについては、附属図書館専用機電算化委員会を設置し、平成2年9月以来検討を重ねてきた。特に、平成3年5月以降は、新システムの機器構成について、現行業務の継続に必要なハードウェア及びソフトウェアを確保するため、関係部局との調整を行なうとともに、仕様策定委員会の審議を経て平成3年7月11日には政府調達に係る官報公告を行った。なお、同8月22日の業者入札書受理の後、別途委嘱された技術審査職員による技術審査を経て同9月2日に開札、機種が決定された。その結果並びに新システムの機器構成については改めて報告の機会を得たい。

(まつもと れんぞう・情報管理課長)

◎玄関ホールに公衆電話が設置されました☎

公衆電話の設置については、これまで利用者の方から多くの要望が寄せられていましたが、このたび実現の運びとなりました。

設置場所は本館玄関ホールに向かって右側で、利用はカード方式だけです。また、極力館内の騒音を避けるために、カード抜き忘れ防止用の電子音を消去してありますのでご注

意ください。

玄関ホールは音が響きますので、ご使用の際はくれぐれも他の利用者の迷惑とならないよう、お互いに注意しましょう。

なお、館内における電話の呼び出しについては一切応じておりません。

「第18回医学図書館員セミナー」に参加して

城 田 由 二

7月11・12日の二日間、九州大学附属図書館医学部分館会議室で「第18回医学図書館員セミナー」が開催された。医学図書館員セミナーは、日本医学図書館協会の事業の一つとして医学図書館員の育成ならびに資質の向上のため、日常の経験・研究の成果を参加者の自主的な運営によって発表する場として企画されたものである。

今回のメインテーマは、「情報化社会における医学図書館ならびに図書館員の果たす役割」、サブテーマが「1. 情報化社会における研修の役割 2. 医学図書館・国際化の中で 3. 医学図書館員が研究者に果たす役割・情報の収集・整理・提供」であった。

全国各地から28名の参加があり、発表は予め分けられた5つのグループにプログラムされ、参加者から選ばれた5名がそれぞれ進行にあたった。発表時間は1人15分までとし、各グループの発表後まとめて質疑応答を行う形式がとられた。発表は様々な角度から行われ、担当者がじかにかかわる問題をダイレクトにとらえた興味深いものであった。

印象にのこった発表は、福岡大学図書館医学部分館の磯野龍一郎氏の病院図書室の立場から、受入雑誌の選定および保存期間について、著者の所属機関・論文のタイプと引用文献の関係を分析することにより、その基準を求める試みや、日本医科大学図書館の渡辺由

美氏の A SENSE OF SERVICE という本をとおして医学図書館員のサービス精神についての発表であった。

渡辺氏の配布した資料の図書館員が考えている図書館と利用者の考えている図書館のギャップに「私は図書館へ行くのを止めたわ。半分は必要なものがカードカタログで見つからないし、カードがあっても書架にあったためしがないわ。」「いやあ、図書館員には聞かなかったよ。中断させちゃ悪いみたいに忙しそうなんだもの。」の言葉をみてハッとさせられた。図書館員として豊富な経験を持つ渡辺氏が最後に「図書館員はサービス精神を信念として持っているだけでなく、行動で見せなくてはならない。」と言われたことが印象的であった。

全体的には新しい情報活動（CD-ROM, 学内 LAN 等）に関する発表が多く、情報検索手段の多様化の中で、医学図書館員はエンドユーザーへの援助・教育・訓練という立場から、あるいは情報収集・管理・提供の専門家として、より高度な知識が要求されてくるという感を受けた。2日間という短い期間であったが、医学図書館に働く様々な人々と出会えたこと、自己啓発の機会が与えられたことに対し感謝の気持ちでいっぱいである。

(しろた ゆうじ・分館閲覧係)

◎館内が明るくなりました

本館2階のメインカウンター及びOPACコーナー周辺と3階のラウンジ周辺の照明工事を夏休み期間中に実施しました。

また、医学部分館でも、1階複写コーナー、CD-ROMコーナー周辺と2階新聞コーナー

周辺の照明工事を行いました。

この結果、これまでは曇った日や、夜間時には少し暗かった箇所がぐっと明るくなり、とても便利になりました。これからも大いに図書館をご利用ください。



沖縄関係図書新着案内

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。館内で探す際の手がかりとなります。

0類 総記

1. 読書活動状況調査：奄美群島14町村昭和63年度 鹿児島県立図書館奄美分館 1988 019.3-Ka19
2. わたしの中の大正・昭和 (中村文子) 中村文子 1990 049-NA
3. こし方の記：ある基礎医学者の覚え書 (大鶴正満) 大鶴正満教授退官記念会 19-- 049-OT
4. 1945年以前の県外発行雑誌にみる沖縄関係記事目録 (沖縄県立図書館) 沖縄県立図書館 1990 051-OK

1類 哲学

5. 沖縄の信仰用語 (比嘉朝進) 風土記社 19 164-III
6. 死刑囚から牧師へ：死刑台に消えたはずの学徒兵が生きていた (新垣三郎) 改訂新版 東均 1991 190.28-AR

2類 歴史

7. 神・村・人：琉球弧論叢 (仲松弥秀先生傘寿記念論文集刊行委員会) 第一書房 1991 200.4-NA
8. 宮古・沖縄の歴史見聞録 (譜久村寛仁) 沖縄教販 1990 201-FU
9. 中国・琉球交流史 (徐恭生) ひるぎ社 1991 201.18-JO
10. 冊封体制の解体と清末知識人の東アジア

認識：台湾・琉球・越南・朝鮮問題を通して (西里喜行) 琉球大学 1990 (平成元年度科学研究費補助金 (一般研究C) 研究成果報告書) 201.18-NI

11. 冊封使：中国皇帝の使者 (沖縄県立博物館) 沖縄県立博物館 1989 201.18-OK
12. 琉中歴史関係論文集：第二回琉中歴史関係国際学術会議 (琉中歴史関係国際学術会議実行委員会) 琉中歴史関係国際学術会議実行委員会 1989 201.18-RY
13. 天皇制国家唯一史観を疑う：中国史料・沖縄古代史をふまえて (草野善彦) 光陽出版社 1990 201.3-KU
14. 昭和回顧録 (沖縄人事行政調査会) 沖縄人事行政調査会 1990 201.7-OK
15. 宜野座村誌 第一巻 通史編 (宜野座村誌編集委員会) 宜野座村役場 1991 218-G46
16. 金武村人海外旅券下付表 (外務省) 名簿 (宜野座村誌編集委員会) 宜野座村役場 1991 (宜野座村誌第一巻通史編別冊) 218-G46
17. 金武区誌 資料編 (戦前新聞集成) (金武区誌編集室) 金武区事務所 1989 218-KI
18. 中城村史 第四巻 戦争体験編 (中城村史編集委員会) 中城村役場 1990 227-N32
19. 泊前島町誌 (真喜志駿) 前島町誌刊行委

- 員会 1991 231-MA
20. 兼久郷友会名簿 兼久郷友会 1989
280.3-KA
21. 沖縄人名録 1990, 1991 (沖縄タイムス社) 沖縄タイムス社 1990 280.3-OK
22. 沖縄県人名年鑑 1991 ジンメイ 1990
280.3-OK
23. 氏集首里那覇 (那覇市企画部文化振興課) 第3版 那覇市企画部文化振興課
1989 288.1-N27
- 3類 社 会 科 学
24. 揺れる聖域：リゾート開発と島の暮らし (安里英子) 沖縄タイムス社 1991
302-AS
25. 沖縄文化研究 17 (法政大学沖縄文化研究所) 法政大学沖縄文化研究所 1991 (法政大学沖縄文化研究所紀要 17)
302-052
26. 琉球弧住民運動交流合宿：第2回 琉球弧住民運動交流合宿事務局 1981
302-RY
27. ふるさとに生きがいを求めて (平良真六) 1990 302-TA
28. アコークロー：我に偉大なるアジアの小さな民 (宮里千里) ボーダーインク 1990 304-MI
29. 公文類聚目録 第6巻 国立公文書館 1989 310.9-Ko14
30. 桑原重夫講演録：天皇来沖反対のために (沖縄から破防法を考える会事務所) 19-- 312-OK
31. 沖縄県警察史 第1巻 (沖縄県警察史編さん委員会) 1990 317.7-OK
32. 那覇市情報公開制度運用状況の公表：昭和63年度 那覇市総務部総務課情報公開センター 1989 318.3-NA
33. 沖縄県議会史 第11巻資料編8新聞集成1 (沖縄県議会事務所) 沖縄県議会 318.4-052
34. 実施計画 (平成元年～3年度)；第2次総合計画 (那覇市企画調整室) 那覇市 1989 318.7-NA
35. 沖縄から破防法を考える (破防法を考える会事務所) 破防法を考える会事務局 19-- 326.8-OK
36. 沖縄から破防法を考える 第二集 (破防法を考える会事務所) 破防法を考える会事務局 19-- 326.81-OK
37. ポスト香港と沖縄 (宮城弘岩) ボーダーインク 1991 332-MI
38. 沖縄経済要覧 平成元年5月 (琉球銀行調査部ほか) りゅうぎん国際化振興財団 1989 332-RY
39. 現在沖縄経済論：復帰後における沖縄経済の現状と問題点 (杉野暁明、岩田勝雄) 法律文化社 1990 332-SU
40. 沖縄ロタ会10周年記念誌 沖縄ロタ会事務局 1990 334.4-OK
41. 沖縄県人ブラジル移住80周年・在伯沖縄県人会 在伯沖縄県人会 1990 334.4-ZA
42. 100の指標からみた沖縄県のすがた 沖縄県企画開発部企画調整室 1986 350-HY
43. 沖縄県統計年鑑 第33回平成元年版、第34回平成2年版 (沖縄県企画開発部統計課) 沖縄県企画開発部統計課 1990-1991 350.59-052

4類 自然科学

44. 兼島清教授記念論文集 1957-1988 琉球大学 1988 430.4-Ka54
45. 論文集 1～25, 26～50 (渡久山章) 渡久山章 1990 430.4-TO
46. 琉球列島・沖縄トラフに産する含マグネシウム炭酸塩の地球化学的研究 (大森保 琉球大学 1991 (平成2年度科学研究費補助金 (一般研究C) 研究成果報告書) 450.13-OM
47. 亜熱帯地方・沖縄における台風による都市災害の特性評価とその防災力の変遷について (矢吹哲哉) [琉球大学] 1990 (平成元年度科学研究費補助基金〈重点領域研究(2)〉研究成果報告書) 451.5-YA
48. 琉球弧を中心とする太平洋西縁域における後期新生代海洋環境変動の研究 (氏家宏) 琉球大学理学部 1990 (平成元年度科学研究費補助基金 (一般研究A) 研究成果報告書) 452.15-UJ
49. 明和大津波遭難者慰霊之塔建立記念誌: 幽魂を祀る (牧野清) 明和大津波遭難者慰霊之塔奉賛会 1988 453.5-MA
50. 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究: 昭和62年度沖縄島北部地域調査報告書 環境庁自然保護局 1989 462-NA
51. 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究: 平成元年度西表島崎山半島地域調査報告書 環境庁自然保護局 1990 462-NA
52. 琉球列島に分布するマングローブ樹種の集団遺伝学的解析に関する基礎的研究 (馬場繁幸) 琉球大学 1991 (平成2年

度科学研究費補助金 (一般研究B) 研究成果報告書) 471.77-BA

53. 沖縄海中生物図鑑 第1-11巻 (宇井晋介ほか) 新星図書出版 1987-1990 481.72-052
54. 保健行動・疾病対処行動に関する総合的研究 (名嘉幸一) 琉球大学 1990 (平成元年度琉球大学教育研究学内特別経費研究成果報告書) 493.7-NA
55. 公衛協二十年のあゆみ (沖縄県公衆衛生協会) 沖縄県公衆衛生協会 498-OK、

5類 技術

56. 瀬底大橋建設誌 沖縄県土木建築部道路建設課 [1989] 515-OK
57. 地域住民と川づくりシンポジウム: 川と生きる (報告書) (沖縄県環境保健部) 沖縄県環境保健部公害対策課 1988 517-OK
58. 沖縄県地域開発プロジェクト&実施事業総覧: 平成元年4月～平成2年3月: 国県市町村 & 民間大型事業のすべて (長浜博文) 沖縄ビジネス情報企画 1989 519.9-NA
59. 勝連城跡環境整備事業報告書1,2 (勝連町教育委員会) 勝連町教育委員会 1986-1988 526.2-KA
60. 国指定史跡座喜味城跡: 環境整備事業報告書2 読谷村教育委員会 1986 526.2-KU
61. 首里城正殿大龍柱 (縮尺1/5) 復元経過について (西村貞雄) 沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所 [1988] 526.2-NI
62. 首里城正殿実施設計 (彫刻) 報告書 (西村貞雄) 沖縄総合事務局国営沖縄記念公

- 園事務所 [1990] 526.2-NI
63. 首里城関係資料集（新聞切抜集）沖縄開発庁沖縄総合事務局開発建設部公園調整官 1987 526.2-052
64. 沖縄食の大百科 第1-4巻（池原直樹ほか）沖縄出版 1991 596.1-OK
65. 沖縄の長寿食とふるさと伝統料理 国際料理学院 1990 596.1-TO

6類 産 業

66. 地域活性化への戦略（宮城辰男）ひるぎ社 1991 601-M1
67. 沖縄の地域開発と産業振興：経済の自立化をめざして（百瀬恵夫）白桃書房 1991 601-MO
68. 沖縄県における海洋性スポーツ・レジャー産業による産業振興調査報告書 沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部調査企画課 1989 601-OK
69. 海や森は誰のもの：今、地域で何がおこっているのか！：第1回リゾートを考える地域シンポジウム報告書（リゾートを考えるシンポジウム実行委員会、読谷塾ゆめあーる）リゾートを考えるシンポジウム実行委員会 1990 601-RI
70. どこへ行くオキナワンカンパニー（大城光雄）光データシステム 1991 602-OS
71. 農業改良普及事業の歩み：沖縄県農業改良普及事業40周年記念誌 沖縄県農林水産部営農指導課 1991 611.15-NO
72. 心と心で築く南部農業：農業改良普及事業40周年記念誌 沖縄県南部農業改良普及所 1990 611.15-OK
73. 農産物市場アクセス改善の地域経済構造

- に与える影響調査報告書（日本リサーチ総合研究所）日本リサーチ総合研究所 1989 611.4-NI
74. 宜野湾市農業協同組合史（宜野湾市農業協同組合史編纂委員会）宜野湾市農業協同組合 1990 611.6-GI
75. さとうきび生産構造の実態と改善課題（沖縄県農林水産部農政課）沖縄県農林水産部農政課 1989 617.1-OK
76. 琉球織物における植物染料の資源化学的研究（屋我嗣良）琉球大学 1991（平成2年度科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書）617.8-YA
77. 沖縄の椿：鉢植えと庭植えのすべて（松田浩）沖縄ツツジと椿の会 1991 627.7-MA
78. 南部地区野菜生産振興方向 南部地区野菜振興推進協議会 1989 626-NA

7類 芸 術

79. 具志頭村破名城地区の遺跡分布 具志頭村教育委員会 1989（具志頭村文化財調査報告書 第4集）709.2-G96
80. 「光と影の世界」写真集（平敷兼七、金城美智子）平敷兼七 1991 748-HE
81. あの頃：1959年、沖縄の空の下で。：井上孝治写真集（井上孝治）沖縄タイムス社 1991 748-IN
82. 石川真生写真集：フィリピン（石川真生）石川真生 1989 748-IS
83. 石川真生写真集：港町エレジー（石川真生）石川真生 1990 748-IS
84. 村・ふるさと喜如嘉 喜如嘉区 [1987] 748-MU
85. 壺屋焼の歴史と技法（壺屋陶器事業協同

- 組合) 壺屋陶器事業協同組合 1984
751-TS
86. 大和文華 第63号(大和文華館) 大和文華館 1978 752.2-YA
87. 技と美: 大城志津子図案集(沖縄県立博物館) 沖縄県立博物館 1991
753.3-OK
88. 読谷山花織の基本単位集(沖縄県立伝統工芸指導所) 読谷山花織事業協同組合 1979 753.3-OK
89. 八重山芸能と私たち: 琉球大学八重山芸能研究会創立二十周年記念(創立二十周年記念誌編集委員会) 創立二十周年記念誌編集委員会 1986 760.4-R98
90. オペラの使者: 栗園安彦(北川登園ほか) ジアンジアン出版部 1991
766.028-KI
91. 泡瀬京太郎(当真勲)[1980] 766.9-TO
- 8 類 言 語
92. 琉球の方言15(1990) 法政大学沖縄文化研究所 1991 880-RY
93. 長田須磨の奄美の民話と昔ものがたり: 奄美大島大和浜方言の記録(琉球列島班) [1990] 886-RY
94. 徳之島尾母方言集(徳富重成) 徳富重成 1975 886-TO
95. 奄美諸島方言の言語地理学的研究(上村幸雄)[琉球大学] 1990 886-UE
98. 沖縄の文学一九二七年~一九四五年(仲程昌徳) 沖縄タイムス社 1991(タイムス選書 2-4) 902-NA
99. 琉歌: その表記と訓みについて(喜友名朝亀)[喜友名朝亀] 1990 913-KI
100. つらねの時代(仲程昌徳) ひるぎ社 1990 913-NA
101. 風のいのち: 名嘉勝歌集(名嘉勝) 脈発行所 1991 915-NA
102. 歌集残波岬(津波古勝子) 六法出版 1991(ほるす歌書) 915-TS
103. 句集風を買う街(仲本彩泉) 沖積舎 1991 916-NA
104. 巫島狂奏曲: 藤井令一詩集(藤井令一) 近代文藝社 1991(現代日本詩人選書第25集) 917-FU
105. 詩集イチカラン・イチチ(岸本マチ子) 花神社 1990 917-KI
106. 詩人の散歩: 詩画集(宮崎さゆり) 宮崎義久 1987 917-MI
107. 沖縄近代詩集成(III)「八重山新報」(大正十年~昭和六年) 篇(仲程昌徳) 法政大学沖縄文化研究所 1990(沖縄研究資料 11) 917-N33
108. 黒潮のなかのコスモロジー(郷原茂樹) 勁草書房 1989 930-GO

9 類 文 学

96. 鳥尾敏雄ノート 脈発行所 1991(比嘉加津夫文庫 14) 902-HI
97. 書簡鳥尾敏雄 脈発行所 1991(比嘉加津夫文庫 15) 902-HI

◎館内資料配置を一部変更しました

附属図書館本館では夏休み期間中に、蔵書充実に伴う書架増設と館内資料の移動を実施しました。この結果、参考図書室、2階及び3階の開架閲覧室、雑誌閲覧室内の資料については、大部分が移動しています。ご利用の際は十分ご注意ください。

資料配置変更の概要は以下のとおりです。

2階参考図書室 (図面参照)

- ①開架図書(和書)のうちNDC分類の0類(総記、図書館学、情報科学等)及び1類(哲学、心理学、宗教)を2階開架閲覧室から移動した。
- ②白書・統計書、指定図書、法学資料を同室内で移動した。

2階開架閲覧室

- ①開架図書(和書)のうち、NDC分類の200(歴史学)から470(植物学)までを配置した。
- ②書架調整のために、全体的に資料を移動した。

3階開架閲覧室

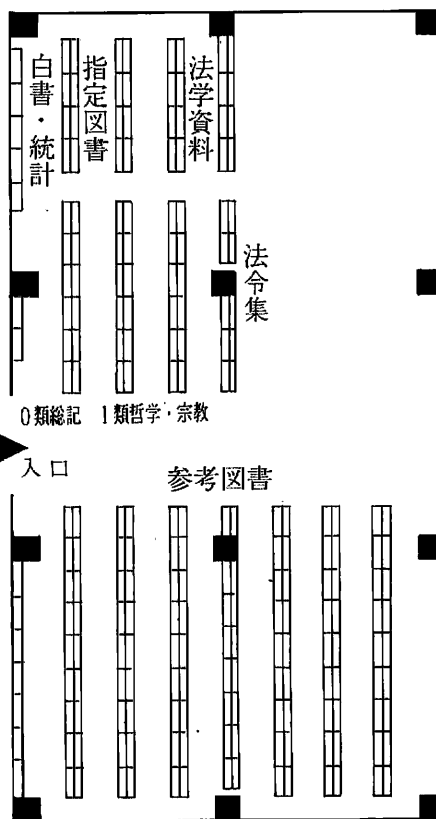
- ①開架図書のうち和書の480(動物学)から990(その他の諸文学)まで及び洋書の全分野を配置した。
- ②書架調整のために、全体的に資料を移動した。

3階雑誌閲覧室

- ①アメリカ研究図書(すべて洋書)を3階開架閲覧室から当室内の国際資料コーナーに移動した。

- ②書架調整のために、国際資料及び紀要類を全体的に移動した。
- ③新着雑誌を本来の位置(分類順)に整頓した。

参考図書室資料配置図



OPAC 利用状況 (平成2年6月～平成3年8月)

	H2.6~11	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
館内OPAC専用端末	4,878	524	598	547	159	101	893	943	669	430	9,742
研究室等端末	303	2	11	24	3	0	9	12	9	7	380
事務用端末	48	45	23	89	24	20	43	56	23	15	386
その他	51	0	35	11	0	90	0	38	10	4	239
計	5,280	571	667	671	186	211	945	1,049	711	456	10,747

注：数字は端末からのアクセス回数を示します。

図書館事情

〔人事異動〕平成3年7月1日付

氏名 現 職 (前 職)
宮 里 恩 情報サービス課学術情報係員 (情報処理センター)

〔会議〕

◎図書館運営委員会

第190回 平成3年7月16日(火)

協議事項

1. 大学改革の推進について—図書館関係—

報告事項

1. 専用電算機導入の進捗状況について
2. 第38回国立大学図書館協議会総会について
3. 書架移動作業について

医学部分館だより

〔会議〕

第39回九州地区医学図書館協議会総会が福岡大学図書館医学部分館の当番で下記のとおり開催され、医学部分館から分館長、専門員、整理係長が出席しました。

日時：平成3年8月30日(金) 14:00～

会場：福岡大学セミナーハウス

協議題：1. 医学図書館の使命と役割—国際化の中で 2. 医学図書館のありかた—研究・医学活動の支援機関として 3. 医学図書館員教育のあり方について 4. 雑誌の分担収集について(継続審議) 5. JMLA次期理事及び評議員の選出について 6. 地区会友制度について 7. 次期当番館について

報告事項：1. 第18回医学図書館員セミナーについて 2. 第63回(平成4年)日本医学図書館協会総会の準備状況について

琉球大学附属図書館報“びぶりお”第24巻 第3号〔通巻第92号〕

平成3年9月30日 発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 098(895)2221 内線(2143) 編集 びぶりお編集委員会